

研究課題名：

Lepidic Predominant type肺腺癌の進行と癌微小環境の変化について

研究対象：

2003年1月1日以降に国立がん研究センター東病院呼吸器外科・病理診断科において肺腺癌と診断された方々の診療録を対象とし、肺腺癌の中でも段階的に進行する肺胞上皮置換性という形態をとる肺腺癌を評価するための情報収集を試みます。

研究の概要：

肺がんにはいろいろな種類がありますが、特に肺腺癌はもっとも多い肺がんです。この肺腺癌の中でも肺胞上皮置換性という形態をとる肺腺癌は段階的に悪性度を増していくことが分かっています。この悪性度が増していくメカニズムについての詳細はまだわかっていません。さらに肺がんはがん細胞だけでなく、がん細胞の周囲にある微小な環境にも影響をうけるとされています。この微小環境の状況によってがんの悪性度が増していくことも分かっています。しかし、微小環境と肺腺癌の段階的な進行の関係についてはまったくわかっていません。

研究の意義：

手術で摘出した肺がんの組織に対して、がんの発達段階や悪性度の高さ、がんの周りの微小環境の変化を観察します。肺腺癌は最も多い肺がんでありそのメカニズムを知ることは今後の肺がん診療に貢献できると考えます。

目的：

悪性度が増していくメカニズムとがん周囲の微小環境との関係を明らかにしていくことが目的です。この研究データの結果を発展していくことで肺がんのメカニズムがより詳細になれば新たな治療につながっていく可能性があると考えております。

方法：

2003年1月～2010年12月に国立がん研究センター東病院呼吸器外科で切除され、先端医療開発センター 臨床腫瘍病理部で原発性肺腺癌と診断された患者さんの診療録より情報収集をおこない、肺腺癌の形態を顕微鏡で確認します。さらに2004年1月～2015年3月の期間に国立がん研究センター東病院呼吸

器外科で切除され、先端医療開発センター 臨床腫瘍病理部で Lepidic predominant type と診断された原発性肺腺がんの進行がどの段階にあるかを決定し、免疫染色と呼ばれる検査を行います。この免疫染色の結果を点数化して評価・検討します。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。患者さんの個人情報は、試験責任医師以外識別できないように、匿名化します。匿名化された臨床病理学的情報に関する情報の同定はカルテ番号を用いて行います。個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申して出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

TEL：04-7133-1111、FAX：04-7131-4724

試験責任医師：

国立がん研究センター東病院先端医療開発センター

国立がん研究センター東病院 病理診断科 ユニット長 石井源一郎